

ちかひ

2010

彼岸号

VOL.128

浄土宗西山深草派宗務所

総本山 誓願寺



◆ 真如寺所蔵 絹本著色 釈迦涅槃図 ◆

目次

- 慈光〈第十四回〉
- 祖法然上人八百回大遠忌にむけて⑥
- 誓願寺縁起物語〈第十九話〉
- お釈迦さまのご生涯 ①
- インド **ドタ** **バタ** 夫婦道中記 (22)
- 総本山誓願寺だより
- 何でも“お寺探偵団”Vol. 26 真如寺

慈光 14



『慈光』。万物を育成し世に恵みを与える光。大慈悲の光明。阿弥陀さまの分け隔でない暖かい優しい光。私たちはこの光を頂き、生かさせていただいております。慈光に照らされた私たちの生活を今一度考えてはどうでしょうか？鈴木皓道先生のお寺岡崎市本宿町「慈光院」より拝しました。

【要体教育】

要体教育とは、口先や思いつきでなく、日頃の動作を体で行って、その後ろ姿を見せて、子どもを躰（しっ）け、教育することであります。現在アメリカ、中国で行われているが、躰を重んじる日本で忘れられようとしているのは皮肉なことです。

私は、檀家の家で年忌以外の折、好んで食事を頂き、そちらの家族と共にする時間を大切にしています。

三年ほど前のこと、ある檀家の家での出来事です。

小学校二年のマナーときたら？

挨拶はしない。

正しく座って食べない。

箸を持つて立つ。

などなど。

私は、機会のある度にそれとなく注意をしながら、私自身が箸の取り扱い、取り皿の取り扱い、テーブルが汚れないよう等に心を配りその子と話をしました。

それから二年も過ぎ、そちらの月命日へ夕方訪れた時、その子が学校から帰ると「ただいま」。一緒にきちんと座ってお参りを終えたあとに、取り皿をお盆に載せ運び、座ってテーブルに並べたのです。

私は、思わず「あー。美しくできたね」と褒めました。すると、同席のお祖母さんが、「昨夜、この子がね、明日はお寺さんと食事を頂くから、今日は特にきれいに髪を洗うよ。と心配りをしていましたよ。」

何と素晴らしい成長でありましょう。

『褒めて育てる』

軽々しく世間では言うが、目の前の事実をそのまま褒めると同時に、褒めた人も、その行為を心に留めて成人として成長充実することでもあります。

楽しんで頂いた食事でした。

布教講習所 所長 鈴木 皓道
慈光院 住職



総本山誓願寺本堂にて

本年度は、体験学習として落語の先生をお招きして、お話をしていただきます。夏休みの貴重な思い出に、ぜひご参加ください。詳しくは、各寺院にご確認ください。

少年少女 参加者
年 参拝団 募集

本年も少年少女参拝団を8月19日、20日の二日間実施することになりました。

小学5、6年生を対象に、京都総本山誓願寺で、写経やお経の練習などの体験をする、厳しさのなかに楽しさもある一泊二日の研修です。



元祖法然上人八百回
大遠忌にむけて⑥

禅勝房と言うお弟子さまが、法然さまから「仏の本願によって往生できるのであるから他力往生という」と聞き、重ねてお尋ねしました

「自力他力をどのように

心得ればよいのでしょうか」

皆さん「他力本願」と言いいますと、今では他人頼み、他人任せの自分で努力をしない悪い意味に使いますね。ですが決してそうではありません。

さて、テレビやラジオのニュースを聞いておりますと、人が他人さまを殺めてしまう悲しい事件が堪えません。このような極悪の罪人には、日本の法律によつて極刑をもって罪を裁かれます。

その罪人は、阿弥陀さまの極楽浄土へ行けるのでしょうか？

「法然さまのお言葉」く禅勝房に示されける御詞く

「罪のあるなしに關係なく、善人でも悪人でも、持戒の者も破戒の者も、

男でも女でも區別することなく、

一人も洩れなく往生できるのである。」

法然上人は、禅勝房の尋ねに、このようにお答えになつています。

「極めて罪深い罪人であり、救われる方法が他に無い凡夫には、阿弥陀仏が居られます極楽浄土に往生できる才能も修行も、はじめから持っていないのである。しかし阿弥陀仏の御力があればこそ念仏を称えて本願に應えれば仏の来迎を蒙ることが出来るのである。」と仰せ下さいまして、

「私たちが修行による自力によつて悟りをひらくことや、極楽浄土に行く(往生)ことは到底無理なことと示されました。法然さまは続けて

「仏は、仏の本願を知らないこのような罪人までもすべて救う為に本願をたて給うたのである。本願の念仏を称えながら往生を疑うことは、決してあつてはな

らない。念仏往生の本願によつて、念仏の称える者の知恵のあるなし、罪のあるなしに關係なく、善人でも悪人でも、持戒の者も破戒の者も、男でも女でも區別することなく、たとえ末法万年が過ぎて三宝が滅し尽くした後の百年間の人々までも、一人の洩れなく往生できるのである」と仰せ下さいました。

「他力本願」とは、すべてを阿弥陀さまにお委せして極楽浄土へ生まれるということです。特に、自分では何も出来ないと理解して阿弥陀さまにおまかせすることとを「真実他力」と申します。善人、悪人の區別なく、阿弥陀さまの御力によつて救われるのであります。誰もが平等に極楽浄土に行けます。

元祖法然上人 御忌法要(799回忌)

平成22年4月23日(金)～25日(日) 於 総本山誓願寺

法然上人の御遺徳を偲び、総本山誓願寺において「御忌法要」が営まれます。
多くの方にご参詣いただきたいと思います。

誓願寺縁起物語

【第十九話】

小島 英裕

真阿上人の往生



真阿上人在世の時代、相国寺に心了西堂という僧侶がいました。応永十九年（二四一二）の冬、突然病氣になり、一門が治療を施しましたがその甲斐なく、亡くなりました。しかし体は温かいままなので、茶毘に付すこともできません。

ところが三日後に蘇り、語り出しました。

死後の世界に趣き、広々とした果てしない野原を過ぎたところに、一つの金堂がありました。見ると内陣の中央には金の蓮台のみがあり、仏さまはおられません。左右の蓮台には二体の菩薩さまがお立ちになっているので、阿弥陀さまをお祀りするお堂なのでしょう。金堂に一人の老僧がおられたので、その訳を尋ね

てみました。

「京都の誓願寺に、真阿弥陀仏という念仏の行者がいます。真阿弥陀仏の娑婆での命が尽きた後、この蓮台に移られるのです」

と語りました。ふと遠くの寺院を見ると傍らにみすばらしい庵があります。

「あの庵は、誰の住むところですか」

と尋ねると、老僧は

「あれは、あなたの庵です」

と答えました。

「どうすれば生まれる所が変わるのですか」

と聞くと、老僧は

「修行が劣っていると言っているではありません。ただ修行で悟りをひらく人が希なものです。あなたにはまだ修行が足りません。早く娑婆の世界に帰りなさい」



下鳥羽の渚に水葬された真阿上人

と言われ目が覚め蘇りました。心了西堂は急いで誓願寺に詣で、真阿上人より十念を授けていただきました。心了西堂は、すぐに自力

の修行を捨て、念仏の行者となり、賀茂山の麓に草庵を造り、往生の望みを遂げました。

真阿上人は念仏の功を積み、往生が近づいたことを悟ると、剃髪沐浴し、仏前に香や花を供え静かに座り合掌し、大きな声で念仏を称えたのち、永享十二年（一四四〇）七月二日、眠るがごとく六十六歳にて往生しました。遺言に「我が屍を水葬して魚の餌にして欲しい」とあったので弟子は、下鳥羽の渚に屍を沈めました。その時、人々は目の当たりに阿弥陀さまの来迎を拝むことができ歓喜の涙を流しました。

その後、この場所は「真阿ヶ渚」と名付けられ、殺生禁断となりました。

（つづく）



白い象に乗り、母の胎内に入るお釈迦さま

お釈迦さまのご生涯 1

文・釈尊法話会 絵・豆田 織奈

お釈迦さまとは、わたしたちに
極楽浄土の阿弥陀さまとお念仏
と教えを伝えて下さった仏さま
です。「釈迦牟尼仏、釈尊、仏陀」と
も呼ばれています。その八十年の
ご生涯を数回に渡って連載致し
ます。今から約二千五百年前のイ
ンドでのお話です。

下天、託胎



お釈迦さまがお生まれになる
前のお話です。空の上の兜率天に
いらつしやった時、

「どこの土地に生まれようか。ど
この国に生まれようか。どの家柄

に生まれようか。誰の子供に生ま
れようか」

と空の上からわたしたちのいる
娑婆の世界を見渡されました。生

まれる土地は閻浮提、生まれる国

はカピラ国、家柄は王族である釈
迦族、父は浄飯王、母は摩耶夫人

とお決めになりました。

浄飯王と摩耶夫人の元へ六本

の牙のある白い象に乗り、天界を
離れ娑婆の世界に降りられたの

です。多くの神々が、様々な音楽
を奏で、香り豊かな香を焚き、美

しい花を散らし、大きな光を放ち
ながら、お釈迦さまのお供をし

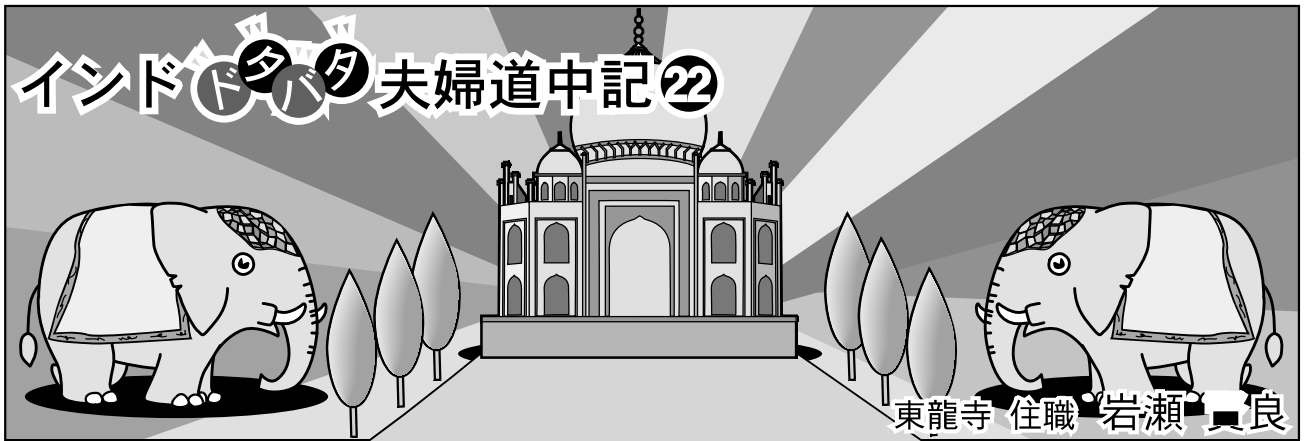
ました。

七月十五日の明けの明星に、母

となる摩耶夫人の右脇から体の

中に入られました。その日、摩耶

夫人は子どもを身籠りました。



気分良く帰った運転手

小さな町オールチャアの賑やかな寺院の前まで引き返し、寺院に入ると、早速ポリスの持ち物検査が始まり、ジーパンのベルトを調べられ、否定すれば良かったのに、牛革かと聞かれたので思わず「イエス」と答えてしまい、ベルトを引き抜く羽目になってしまったのだ。牛はヒンドウ教では神の使いとされているので、たぶんそれが理由なのだろう。僕自身そのベルトが、牛革なのか合成革なのか分からないのに……。

履き物を脱ぎベルトをあずけて中に入ると、そこはちょうど結婚式の最中でお寺の中庭はいっぱいの人でごった返していた。訳の分からないままお寺を出て、門前の賑やかな通りの店先のテーブルに着き、三人で昼食を頼んだ。四泊五日のリッチ（？）な旅も終演に近づき、前夜に多額のチップを手にして気を良くしたのか、その場は運転手がおこってくれたのである。

午後三時頃、ジャンシー駅に着き、運転手にはあまり渡したくないお礼を渡した。彼だけが気を良くするのは癪だったので、「これはあんたへのプレゼントじゃないよ！ 只さん^{としこ}にあげてね。」と、本当は利子が着る筈だったパンジャビドレスを渡したのである。

ご丁寧に駅に到着するなり、僕たちを車に待たせて赤帽のおじさんにコンタクトをとり、僕には、赤帽のおじさんに、普通なら一〇ルピーでも多いのに、一〇〇ルピーのチップを渡すようにアドバイスをし、別れの挨拶をして、彼はデリーへの長い道のりを帰って行った。

彼は自分より若く低いカーストらしき人には面倒見の良さそうなタイプだと僕は思った。彼らは彼らの共存共栄を計り、知恵を巡らすのであろう。まあそのお陰で、待つべきプラットホームを探す手間は省けたのである。

列車の到着時刻にはあまりにも

時間があり過ぎたので、僕は利子を駅に残し駅前の町並みをふらつくことにした。ジャンシーは大きな町の様で、駅からまっすぐ延びる道の最初の交差点の一角には、民衆を率いるマハートマー・ガンディーのブロンズ像が立っていた。その辺りに暫く居ると、こちらに興味ありげに集団下校する小学生たちが通りかかったので、ガンディー像をバックに写真を撮らせてもらった。



民衆を率いるマハートマー・ガンディー像(ジャンシー駅前)

総本山誓願寺だより

元祖法然上人八百回大遠忌お待ち受け法要

平成二十二年三月一日現在までに行われました「お待ち受け法要」をご紹介します。また、今後の予定も合わせてお知らせ致します。

平成二十年

十一月二日(日)……京都市 法雲寺

平成二十一年

十月七日(水)……豊川市 立信寺
十月十日(土)……西尾市 常福寺
十月十八日(日)……吉良町 専長寺
十月三十一日(土)……吉良町 福泉寺
十一月八日(日)……名古屋市 蓮華寺(※)

※名古屋市蓮華寺では、井ノ口管長猊下の代務として、杉浦宗務総長が大導師を勤められました。

平成二十二年(予定)

三月十四日(日)……常滑市 信谷院
五月一日(土)……蒲郡市 安楽寺
五月五日(日)……篠山市 誓願寺
五月三十日(日)……碧南市 妙福寺
十月二日(土)……蒲郡市 真如寺
十月十日(日)……豊田市 宝樹院
十月十七日(日)……篠山市 浄土寺
十月二十四日(日)……岡崎市 円福寺
十月三十一日(日)……西尾市 養寿寺

ちかい第127号のお詫びと訂正

7ページ総本山誓願寺だよりおもな行事予定の日程の曜日表示に誤りがありましたのでお詫びして訂正致します。

一月
●十五日(木)↓(金)六阿弥陀功德日
二月
●二十四日(土)↓(日)法然上人追慕念仏行脚
●三日(火)↓(水)節分会
●八日(日)↓(月)六阿弥陀功德日
三月
●十四日(土)↓(日)善導忌・六阿弥陀功德日
●十七日(火)↓(水)月↓十八日(木)↓二十四日(水)春彼岸

おもな行事予定

三月
●十四日(日) 善導忌・六阿弥陀功德日
●十八日(木)↓二十四(水) 春彼岸
四月
●十一日(日) お半長右衛門二百五十回忌
●十五日(木) 六阿弥陀功德日
●二十三日(金)↓二十五日(日) 御忌会
五月
●十八日(火) 六阿弥陀功德日
六月
●十三日(日) 和泉式部忌
●十九日(土) 六阿弥陀功德日
七月
●十四日(水) 六阿弥陀功德日
●十五日(日) 六阿弥陀功德日
八月
●十五日(日) 六阿弥陀功德日

クイズコーナー

問題

今回より新連載されましたコーナーのタイトルより、〇〇に当てはまる人物は誰でしょう？(漢字2文字)

お〇〇さまのご生涯

官製ハガキに答えて、郵便番号、住所、氏名、菩提寺(だんな寺)、感想や質問を必ず書いて送ってください。

今回は真如寺さまより「子安観音御札(火除け)」を三名、本山謹製線香を五名の方に、合計八名に抽選にて差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】〒444-3523

岡崎市藤川町字中町南十五番地
稱名寺内 ちかい編集係

締切

五月十日
(消印有効)

答えお〇さまのご生涯
郵便番号
住所
氏名
菩提寺(だんな寺)
感想・質問等

ちかい 第128号

発行日 平成二十二年三月一日
発行所 浄土宗西山深草派
総本山誓願寺

京都市中京区新京極桜之町四五三番地
電話 (〇七五) 二二二〇九五八
FAX (〇七五) 二二二〇一九
E-mail info@fukakusa.or.jp

何でもお寺探偵団 真如寺

Vol. 26

今回は、愛知県蒲郡市形原町の「海性山 法性院 真如寺」を訪ねました。

プロフィール紹介

なかむら しんくう しんにょじ 中村 真空 師 (真如寺 第37世住職)

昭和5年、幡豆町真相院に長男として生まれる。昭和34年、幡豆町宝樹院住職。昭和50年より西浦町眞性院19世、平成3年より真如寺37世となる。



Q1 お寺の由来を教えてください。

当寺の歴史は、開基源信僧都の意を受けた多田満仲公が長徳3年(997)春に幡豆郡佐久島西寺島に建てられた天台宗寺院に始まります。高潮によって境内が荒廃したため、現在の幡豆町山口郷に移転しますが、その後、火災によって諸堂焼失してしまいました。しばらくは仮屋を建てて本尊を安置していましたが、応仁3年(1469)中興開祖の空一洞本上人が、この形原の地を開墾して堂宇を再建され、浄土宗に改められました。現在の本堂は、寛延元年(1748)2月、第20世学翁歆好上人が檀信徒と力を合わせて再建されたものです。

Q2 お寺の宝物は何ですか？

当寺は、この地方の本寺として、末寺から住職が選ばれて入るお寺であるため、人も物も移動が頻繁で、宝物は多くはありません。

残された宝物の主なものとしては、大きな「釈迦涅槃図」があります。江戸時代の初期、貞享3年(1686)に作られたものです。破損がひどく掛けることもできなかったものを、数年前に修理しました。

涅槃図とは、お釈迦さまがお亡くなりになった時の様子を描いた絵のことです。中央の台の上に横たわられたお釈迦さまの周りに、たくさんのお弟子さまや大小さまざまな動物までもが、みな集まって悲しんでいる様子が表わされています。この涅槃図は、その後日談の絵8図が左右に描かれているのが特徴です。

もとの表装の裏には、当時の住職、第17世示空円智上人の名と共に、寄付を募られた方々のお名前が記してありました。これを見ると、当時の方々がお寺に寄せられた思いが

よくわかります。この他に、「法然上人絵伝」4幅の周囲にも、寄付者やその回向された方々のお名前がびっしりと書き連ねてありました。

Q3 「ちかい」読者に一言お願いします。

最近の皆さんは、とにかく遠方の有名な寺社にばかりお参りされるようですが、まずは地元のお寺を大切にされるとよいと思います。そこにご先祖さまのお墓があれば、なおさらのことです。

当寺の再建の歴史、また涅槃図の裏書にもあるように、お寺というのは、人々が集まって支えられているのです。私もその一人として、毎朝の諸堂の勤行を欠かさず、ありがたく阿弥陀さまのお守をさせていただいております。

Q4 「ちかい」読者に何かいただけませんか？

当寺のお稲荷さまは、火除けのご利益があると信仰を集めております。そのお札を3名様に差し上げます。

【交通】

名古屋鉄道西尾線「形原」駅
もしくは「西浦」駅下車、徒歩10分
名古屋鉄道バス「上本町」停留所
下車 徒歩5分

【主な行事】

●御忌会 1月24・25日
●涅槃会 2月15日
●善導忌 7月14日
●春秋彼岸会 彼岸中7日間
●花まつり 4月8日
●盂蘭盆会 8月10日

【お問い合わせ】 真如寺

〒443-0104
愛知県蒲郡市形原町石橋11
TEL・FAX (0533) 57-2033



◀ 本堂



◀ 稲荷堂